

心不全療養指導士 活動報告書 (記載例)

求められる役割の中からテーマを1つ選択して、その活動について記載してください

<p>テーマ</p>	<p>③地域における活動</p>
<p>活動の目的</p>	<p>心不全療養指導士同士の横のつながりが少ない現状にある。地域との連携を強化し、シームレスな支援を行うために、心不全療養指導士のネットワーク立ち上げを行った</p>
<p>活動の実際</p>	<p><b>【活動内容】 実際の活動を具体的に記載</b></p> <p>2023年3月日本循環器学会学術集会の心不全療養指導士caféに集まった、同県の心不全療養指導士に声をかけ仲間を集めた。理学療法士、薬剤師、看護師、栄養士と多職種の8人のメンバーを集め、定期的にWeb会議を開催した。この地域ネットワークを立ち上げる目的や方法などを統一する必要があると考え、話し合いを行った。今後の目的や活動を明確にして、県の心不全療養指導士にむけてSNSなどを通じて広報し、現在50名の仲間を増やすことができた。</p>
	<p><b>【活動の結果】 どのような結果が得られたのかを具体的に記載</b></p> <p>ネットワークとして、職種横断的な心不全療養指導士としての活動内容を意見交換するための勉強会を計6回開催した。各回で平均して看護師5名、薬剤師5名、理学療法士5名、管理栄養士5名程度の参加があり、主に「単回の療養指導は可能であるが、持続的なフォローの難しさ」が議論された。施設間でも意見が異なる部分が特徴的であったため、循環器学会の九州地方会ではこの問題について集中討議の場を設けた。</p> <p>地方会後のアンケート結果では情報の引継ぎや共通のフォーマットの不足が根本的な原因との意見が多く上がったため、次回2024年8月にはこの原因への対策方法を議論する企画を進めている。</p>
<p>評価課題</p>	<p><b>【心不全療養指導士としての役割発揮及び今後の課題】</b></p> <p><b>・心不全療養指導士として役割を発揮した部分</b></p> <p>心不全療養指導士は職種横断的な役割を担うことが期待されているが、自施設だけ見た場合には他職種の視点が見えにくい課題もある。</p> <p>今回ネットワークを立ち上げたことで、多施設・多職種の療養指導士が視点を共有することが出来るプラットフォームを構築でき、施設個別の問題点、施設間共通の問題点を把握しやすくなった。</p> <p>活動の結果からも分かるように、多くの施設が入院→外来→在宅という患者のフェーズ移行に合わせて持続的なフォローの必要性を感じているにも関わらず、それが実践できない悩みを抱えていることが明らかとなった。病院と地域が相互理解を深め、共通言語を持った連携を行うためには共通の情報把握フォーマットやフォロー時の確認項目の統一が必要と思われることを抽出できたという意味でも、今回のネットワークの立ち上げは療養指導士としての行動を実践できたと考える。</p> <p><b>・今後の課題</b></p> <p>今後は、地域の心不全連携バスの構築や情報把握フォーマット、フォロー時の確認項目の検討を多施設の療養指導士で検討していく必要があると考える。各医療圏における特性を考慮しながら、保険薬局の協力には薬剤師の力を求めるなどの職種毎の強みを生かしたい。一方でネットワークへ介入している療養指導士の数には地域別に差が大きいことから、地域の療養指導士への協力を呼び掛けていく必要がある。</p>